

下水道事業審議資料

(目 次)

- | | |
|-------|-------------------|
| 2 ページ | 1. 下水道事業における現状と対応 |
| 3 ページ | 2. 今後の収支見通し |

1. 下水道事業における現状と対応

現 状

①下水道普及整備から維持管理へ

- ・利用区域内で家などあるところは下水道が利用できます。

②施設の老朽化進行

- ・名寄地区では昭和46年より下水道事業に着手しています（44年経過）
- ・下水管のつなぎ目から雨水などが入る量が増えています

③人口（利用者）の減少と節水意識の向上

- ・下水道使用料減収

対 応

施 設 更 新 ・ 整 備

①計画的に更新

- ・施設を調査し、施設の傷み具合を把握
- ・経費の平準化

②事業費の効率化

- ・国の交付金事業の活用
- ・低コスト工法の採用（管渠更生など）

維 持 管 理

①下水機能の維持

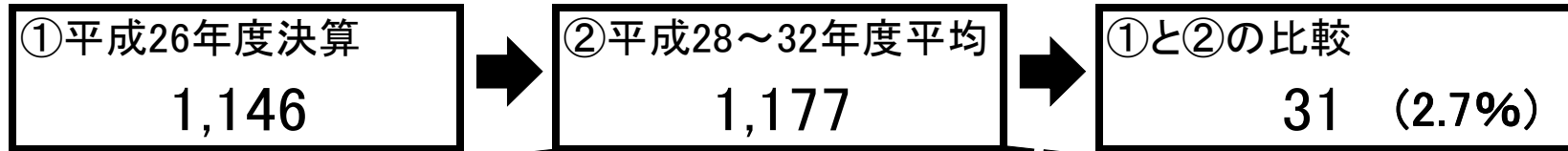
- ・施設の点検、計画的な補修（不明水調査等）
- ・放流水質の確保（環境保全）

②適切な収納体制

- ・未納者対応
- ・口座振替推奨、コンビニ納付など

2. 今後の収支見通し

(単位:百万円)



経費別	設備更新・整備 (下水道整備事業費)		維持管理 (維持管理費等)	借金返済 (公債費)
	239		400	538
収入別	補助金 (国庫支出金)	借金 (市債)	下水道使用料など (使用料及び手数料等)	公費負担 (繰入金)
	108	150	417	502

現行使用料体系と国の基準での公費負担で財源確保が見込まれる

課題 予測が難しい(人口減少、資材・労務単価上昇、経年劣化の進行状況、市全体の財政状況など)

→ 今後とも決算状況の確認や定期的に収支見通しなどの確認が必要